

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和7年6月20日（金）午前10時00分

1 会議録の承認

2 一般報告

GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について
横浜国立大学との連携協定締結式の開催について

3 請願等審査

受理番号4 教育委員会会議の採決に関する要望書

4 審議案件

教委第8号議案 横浜市国際学生会館指定管理者選定評価委員会委員の任命について

教委第9号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について

教委第10号議案 教職員の人事について

5 その他

教育委員会定例会 一般報告

1 市会関係

- 5/23 本会議（第2日）議案上程・質疑・付託
- 5/28 本会議（第3日）一般質問
- 6/2 こども青少年・教育委員会（教育委員会関係）
- 6/5 本会議（第4日）議案議決

2 市教委関係

（1）主な会議等

- 5/29 GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム
- 6/2 令和7年度横浜開港記念式典
- 6/5 令和7年度第1回指定都市教育委員会協議会
- 6/6 横浜国立大学との連携協定締結式
- 6/16 2025年度 横浜市PTA連絡協議会総会

（2）報告事項

- GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラムの開催について
- 横浜国立大学との連携協定締結式の開催について

3 その他

「GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム スタートミーティング」を開催しました！

5月29日（木）、子どもたちの思いや意見を「GREEN×EXPO 2027」に生かす機会として、「GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム スタートミーティング」を開催しました。

横浜市立学校では、SDGs 達成の担い手育成（ESD）を継続して推進しており、GREEN×EXPO 2027 を ESD のさらなる推進の契機と捉えています。また、横浜市では、各学校が準備段階から積極的に関わっていくことにより、「子どもたちとつくる国際博覧会」の実現を目指しています。

今回のミーティングには、市立小中高校の児童生徒 42 名、出展企業などから 13 名など計 143 名が参加し、GREEN×EXPO 2027 のテーマ「幸せを創る明日の風景」のためにそれぞれの立場で何ができるかなど、積極的に意見交換しました。

今後は、学校と出展企業との連携、協働に向けた出会いの場の設定や、子どもたちと出展企業によるワークショップ等を開催する予定です。2027 年、会場を訪れた子どもたちが、連携・協働の成果を実感できるよう、取組を進めてまいります。

1 当日の流れ

- ・はじめの言葉（横浜市立東高等学校代表生徒）、山中市長から激励メッセージ
- ・参加団体、企業及び学校から「幸せを創る明日の風景」に向けた取組状況の紹介
- ・【グループ協議 1】「幸せを創る明日の風景」とは
- ・【グループ協議 2】「幸せを創る明日の風景」のためにそれぞれの立場で何ができるか
- ・振り返り
- ・講評（東京都市大学環境学部 佐藤 真久 教授）
- ・記念撮影

2 振り返り

■子どもたちからの意見

- ・人とのつながり（地域の人、学校内、障害のある方や外国人等）が大切。
- ・地域とのつながりが薄いという課題を見つけることができた。
- ・大人と意見交換する中で、自分でもびっくりする言葉が出てきた。
- ・「大人だから」「子どもだから」ではなくみんなでやっていくことが大切。

■大人たちからの意見

- ・子どもたちの手が次々と挙がり、「幸せを創る明日の風景」を実現するために、自分がしたいこと、自分たちができること、大切にしたいことなどを語っていたことに驚いた。
- ・振り返りの発表で、自分の思いを、自分の言葉で堂々と発言する子どもの姿に圧倒された。
- ・子どもと大人で課題意識が変わらず、対等に協働できる相手だと認識できた。
- ・子どもの姿を見て、大人である自分の方が認識や行動を変えなくてはと気づいた。

3 講評（東京都市大学環境学部 佐藤 真久 教授）

・人の課題、人と人の課題、人と自然の課題といった、自分だけではできない課題解決に向け、「つながり」というキーワードが出たことに大きな価値を感じる。自分ができることを超え、他者との関わりで大きな力を作ることが、これからの社会でとても重要になる。

・共創は「課題解決」だけでなく「価値共創」も重要。GREEN×EXPO 2027 やその 10 年先を見据えて、自分たちが何を解決し、新しい何を生み出したいのか考えてほしい。

・今日、子どもの話を聞いた大人は「変わらなければ」と感じ、大人の話を聞いた子どもも同じく「変わらなければ」と感じた。社会を変えていくためには、我々自身が変わり、力を持ち持ち寄ることが必要。世代を超え、領域を超え、多くの仲間を作ってほしい。



■ 子どもと大人が同じ目線に立ったグループ協議



■ 挙手がとまらない振り返り発表！



■ 子どもたちは堂々と自分の意見を表明

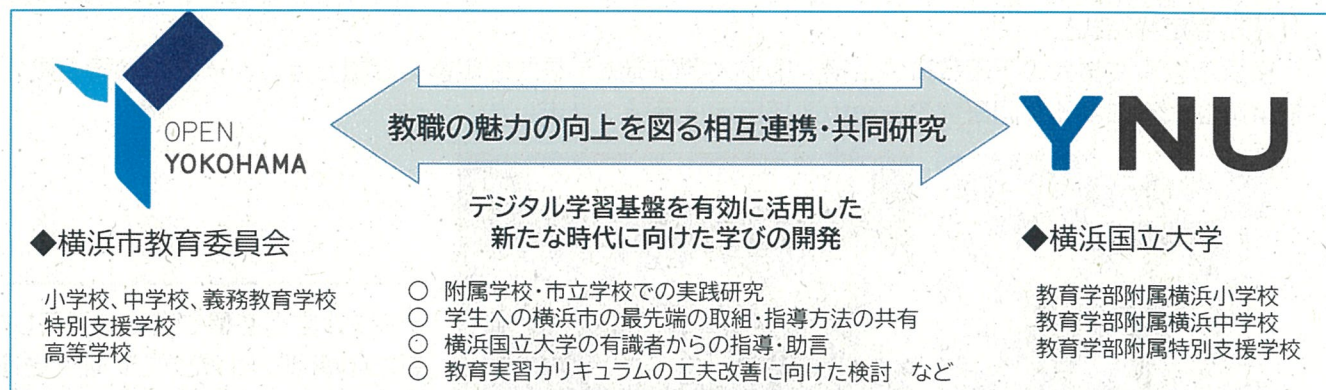


■ 最後はグループごとに笑顔で記念撮影！

横浜国立大学と新たな時代に向けた学びに関する共同研究のための 連携協定を締結しました

このたび、横浜市教育局と横浜国立大学は、教職を目指す学生が学校現場で働く価値を見いだすとともに、学校教育の魅力を感じてもらえるように、GIGA スクール構想によるデジタル学習基盤を有効に活用した新たな時代にふさわしい学びの開発・実証及び教育課題の解決を目指して、共同研究のための連携協定を締結しました。

【連携協定のイメージ】



連携協定締結式 開催報告

1 日時 令和7年6月6日（金）15:30～17:00

2 会場 横浜国立大学教育文化ホール

3 主な出席者

(1) 横浜国立大学

学長 梅原 出
理事・副学長 泉 真由子
教育学部長 鈴木 俊彰
附属横浜小学校長 山本 朝彦
附属横浜中学校長 木村 奨
附属特別支援学校長 中戸川 伸一
教職志望または、教職に興味のある学生

(2) 横浜市教育局

教育長 下田 康晴
教育次長 石川 隆一
教育 DX 推進部長 高梨 智治
教職員企画部長 森長 秀彰
学校教育部長 丹羽 正昇
学校・事務局関係者

4 当日の日程

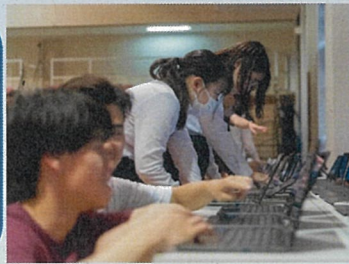
15:00～	横浜 St☆dy Navi、バーチャル空間を活用した学びの体験会(出席者対象)
15:30	1 締結式 (1)協定書確認、締結 (2)代表者挨拶 横浜国立大学長 梅原 出 横浜市教育局長 下田 康晴 (3)写真撮影
15:50	2 パネルディスカッション「ともに創る教育の未来」 登壇者:横浜市教育局長 下田 康晴、横浜国立大学学生、市立学校教員
16:30	3 グループワーク「ともに創る教育の未来」(出席者対象)
17:00	閉会

5 当日の様子

【学びの体験会】

横浜市が取組を進めている学習ダッシュボード「横浜 St☆dy Navi」とバーチャル空間(メタバース)について、教職を目指す学生たちが、端末を使いながら実際のシステム操作や空間体験を行いました。

ICTを活用して、一人ひとりの子どもたちの様子が分かるようになっていることを体験しました。



初めて体験した学生は、実際に操作することで、新しい学びのイメージをもった様子でした。

【連携協定締結式】

横浜市教育委員会の下田教育長と横浜国立大学の梅原学長が協定書の確認を行い、横浜市教育委員会と横浜国立大学による共同研究のための連携協定が締結されました。



デジタル学習基盤を有効に活用した、新たな時代に向けた学びの開発を連携して行っていくことを表明しました。

【パネルディスカッション】

下田教育長と横浜国立大学の学生、市立学校教員によるパネルディスカッションが行われました。その中では、下田教育長から企業との共創によるデジタルを活用した横浜ならではの取組についての紹介がありました。また、学生が教員を志したきっかけや、教育の未来について話し合われました。

・教員を志したきっかけは？
・教育の未来について思うことは？



子どもと一緒に学んでいける教師になりたい。

つながりが、これからの教育に大切になってくると思う。

【グループワーク】

パネルディスカッションを受けて、市立学校の教員と横浜国立大学の学生がグループになり、横浜の教育の未来について語り合いました。



参加した教員や学生からは、
・デジタル基盤を活用した様々な学び方について話げできた。
・GIGA 端末を活用した学習を大学でも学んでみたい。
といった声が上がりました。

横浜市教育委員会 教育長様
教育委員様

教育委員会会議での無記名投票採決についての要望書

2025 年 4 月 24 日



受理番号 4

かながわ市民オンブズマン

代表幹事 大川隆司 保坂令子 佐藤満喜子

綾部祥一郎 中村晋輔

住所 231-0021 横浜市中区日本大通

E-mail ;

電話連絡先

要望項目

- 1 無記名投票採決は、各教育委員の判断の記録すら作成しないという極めて無責任な採決方法であるため、実施しないでください。

要望理由

当オンブズマンでは、「開かれた教育」を求めて、47 都道府県及び 20 政令市と、神奈川県内の全教育委員会計 97 教育委員会を対象に、教育委員会会議の運営や記録に関する公開度調査を数年ごとに行っております。貴教育委員会からも、毎回ご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

4 回目の調査として、2024 年 11 月に「教育委員会会議の公開度に関する調査」を行いました。その結果、貴教育委員会のご回答において、改善していただきたい事項がございました。

調査対象であった 2023 年度及び 2024 年度 10 月末日までの期間について、無記名投票による採決を行っていたのは、貴教育委員会も含め、都道府県では 4、政令市では 5、神奈川県内では 1 教育委員会あり、その案件は、全て教科書採択でした。

無記名投票採決は、各教育委員の賛否が不明だけでなく、記録を取らないために情報公開そのものが成立しません。審議の最終過程を永久に闇に葬り、万一不公正な判断が行われたとしても、それを検証することさえできない不明朗な採決方法です。

調査では、実施理由も質問しましたが、合理的・具体的な必要性は見いだせませんでした。

「より自由な評決が可能になる」「外部からの不当な圧力を避ける」「静謐な環境を維持する」などは、情報公開制度の開始直後の非公開理由によく見られた内容であり、このような理由は、情報公開制度の進展のなかですでに克服され、不適切とされてきたはずで、また、情報公開をめぐる訴訟判決でも、このような抽象的な内容は非公開理由として不十分であるとして退けられています。

公職である教育委員が、具体的な理由のない無記名投票採決を選び、各教育委員の判断記録を残さないようにするのは、市民に疑念を生じさせるだけです。

近年、教科書発行会社が検定中の教科書を教員等に見せて意見を聞き、謝礼を渡していたこと、渡された中には教育長や教育委員も含まれていたことが問題になりました。また、関西のある市で教科書採択をめぐる贈収賄事件があり、この市の教育委員 2 名も接待をうけていたことが報道されました。このような場合、たとえ採択結果に影響はなかったとしても、無記名投票をしていたのでは、事後の検証だけでなく、教育長や委員の身の潔白も立証することはできません。

当会では、10 年以上前から無記名投票採決の調査をしていますが、実施していた教育委員会はごく少数で、案件は教育委員長（現在は廃止）の互選と教科書採択だけでした。貴教育委員会も、少なくとも教科書採択を挙手で採決することは可能と思います。

以上